

「私が持っている財産の半分を貧しい人々に施します。また、もし誰かからだまし取っていたら、四倍にして返します」簡単な言葉に聞こえますね。しかし、現実的に私たちはこのようなことができるでしょうか。神様のとりこになった気持で「あなたがいなかったら、私は生きる意味がありません。神様のために何ができるでしょうか？」と言いながらも「財産の半分を施します」ということができるでしょうか？

先週も徴税人の話でしたね。今日のザアカイも徴税人で、中でも頭だと説明されています。その人がただ「今日、あなたの家に泊まりたい」という言葉を聞いただけで、なぜ「財産を半分施します」というとんでもないことを言ったのでしょうか？

皆様！ ご理解のために物語を作ってみます。ある背の低い男がいました。その人の名はザアカイ。ザアカイは背が低いために、子供と時からいつも皆から無視され、いじめられていました。それで、親に対しても不満を持って幼年時代を過ごしてきました。彼の幼年時代は劣等感そのものでした。ザアカイは人に無視されないためにはどうしたらよいか考えました。自分には力もない、親のうしろだてもない、何もなし。私が生き残るにはどうしたらよいか。それにはお金を持つのが一番だと思った。それで徴税人になって、一生懸命やって金持ちになりました。徴税人の頭にもなり、直接、面と向かって自分を無視する者がいなくなり、むしろ自分に頭を下げる者もできました。ある意味では成功した人生でした。しかし、何か自分の心の中で満たされないものを感じていました。これが幸せになる一番の方法だと思ってやってきたのに、何か足りないものがある。それはいったい何なのかと置いていた時、あるうわさが村に広まりました。ある若い預言者が現れて、その人は今までの預言者と違う。その人に会うと心の病も癒される。体の病気も癒されるし、慰められて勇気をいただける。その人がこの村を通るということでした。ザアカイは体の障害も治す力のある人がこの世にいるなんて信じられなかったのです。その人が来たとき人々が騒いでいるが無視したかった。でも気になり顔が見たくなくて、人々が集まっている所に行きました。しかし自分の十字架である低い背のために、大勢の人々に遮られて見えません。しかたなく先回りしていちじく桑の木に登って、その人が通るのを見ようと思いました。若い30代の青年が目に入りました。その人も自分を見上げて「ザアカイ、急いで降りて来なさい」と言う。この人はなぜ自分の名を知っているのか？「今日、あなたの家に泊まりたい」と言われる。集まっていた人々は厳しい視線を送るが、ザアカイは喜んで家に案内します。そして言います。「わたしの財産の半分を施します。だまし取ったものは四倍にして返します」と……。

この話から考えられることは、ザアカイは自分の人生を振り返ると、本当に痛かったみたいですね。痛みを持って今までやってきた人生。自分を救うためにお金を儲けようとした人生。自分の身分を上げるためにやってきたのに、求めているものは得られなかった人生。しかし、その間違いに気づいたんです。自分が求めていたものはこの方にあられる何かだと悟ったのです。

皆さん、イエス様に会いたいですか？ イエス様が現れて「あなたを愛しているよ」と言われたらどうですか？ それは望んだことが実現することでしょうか？

さあ、黙想してみましょう。この世には様々な痛みがあります。私達は本能的に拒もう、避けようとし、それはあたりまえ。しかし、逆説的な真実もあります。それは私達は苦しみを通らなければイエス様、神様に会えません。会えないのではなく、会おうとする心が生じないのです。私は何者なのか、なぜこのようなことが起こるのかと考えるでしょう。この痛みを通してこそ私達は神様を捜そうとする心が生じるのです。こういう意味で痛みは負うべきなのです。避けたくても避けられない痛み、逃げたくても逃げ場のない痛みなら消極的にではなく、積極的に受け止めて下さい。痛みを愛しなさいという意味ではありません。受け止めるのです。受け止めることによって、どのように生き

るべきか、どのようにイエス様に近づくことができるか、その方法が表れてきます。

私にも皆様にも、これからもたくさんの痛みが待っていると思います。それを祝福として理解するのか、呪いとして理解するのかは自分自身にかかっています。寂しさでも痛みでも、私達にとって“祝福”として理解しようとする心が何よりも必要ではないかと思います。私達に与えられた痛み、それは神様からの呪いとして与えられたものではありません。痛みには必ず意味があります。その意味を見失わないようにしましょう。

ありがとうございました。